



Team HOPE

健康診断報告書

健康診断受診日：

飼い主様のお名前：

ペットのお名前：

SAMPLE



Team HOPE 健康診断

ペットにも予防と早期発見を

DOG > 犬のための健康診断シート

病院名：

管理 No.：

受診日：

年

月

日

ペットのお名前：

品種：

ペットの誕生日：

年

月

日

歳

ペットの性別：

男の子

女の子

避妊・去勢手術：

済

未

予防歴：

狂犬病ワクチン

/

混合ワクチン(

種/

月接種)

/

フィラリア

/

ノミ・ダニ

既往歴：

健康診断報告書 以下の通り、今回の健康診断の結果をご報告いたします。

特に異常は見受けられません。

これからも、日頃の健康管理をお願いいたします。

気になる点があります。

小さな変化を見逃さず、定期的な受診で健康維持に努めてください。

さらに詳しい検査をお勧めします。

なるべく早く、より精密な検査を受診してください。

現在の健康状態と、これからのアドバイス

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....



ペットのお名前：

🐾 1日の食事の回数、量、フードの種類を教えてください

1日： 回 / 1回： g

フード種類：

元気がない

いつから

食欲や、飲水量に変化がある

いつから

食事量： 増 / 減 飲水量： 増 / 減

毛づやの変化や、脱毛がある

いつから

部位

皮膚の赤みや、かゆがっている体の箇所がある

いつから

部位

眼に充血や、目やにがある

いつから

どのように

耳に汚れや、かゆみがある

いつから

どのように

くしゃみや、咳がある

いつから

どのように

口臭がある

いつから

下痢や嘔吐がある

下痢 どんなときに 現在も継続

嘔吐 どんなときに 現在も継続

1日の便や尿の回数に変化がある

便の変化 どのように

尿の変化 どのように

1日の便や尿の量や色に変化がある

便の変化 どのように

尿の変化 どのように

便や尿以外の分泌物がある

いつから

🐾 発情時期を教えてください

月頃

運動時に、疲れやすいなどの症状がある

いつから

運動時に、息苦しそうなお動作や咳などの症状がある

いつから

どのように

呼吸音や呼吸状態に気になる点がある

いつから

どのように

痛そうにしていたり、動かしくそうなお体の箇所がある

いつから

部位：

爪や、指の間に異常がある

いつから

部位：

日常で気になる症状がある

いつから

どのように

夜鳴きや無駄吠えがある

夜鳴き / 無駄吠え

その他に、ご相談したいところ

ペットのお名前：

受診日： 年 月 日

身体検査

体重： kg

体温： °C

皮膚・被毛

掻痒、脱毛、発赤、肛門周囲、
腫瘍の有無、趾間

掻痒、脱毛、発赤：	あり	なし
肛門周囲の異常：	あり	なし
腫瘍の有無：	あり	なし
趾間の異常：	あり	なし

前 左・右

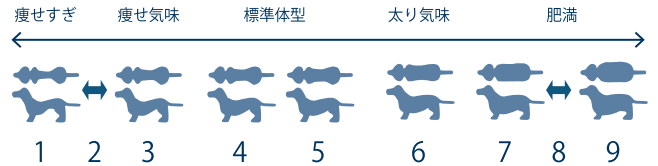


後 左・右



全身状態

肥満・消瘦、浮腫・脱水、体表リンパ節、
可視粘膜（黄疸・充血・蒼白）



浮腫・脱水： あり なし

可視粘膜の異常：
（黄疸・充血・蒼白） あり なし

体表リンパ節の異常： あり なし

ペインスコア ペインスケール
痛み： あり（ / ） なし

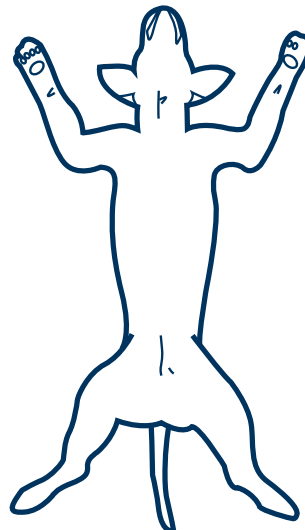
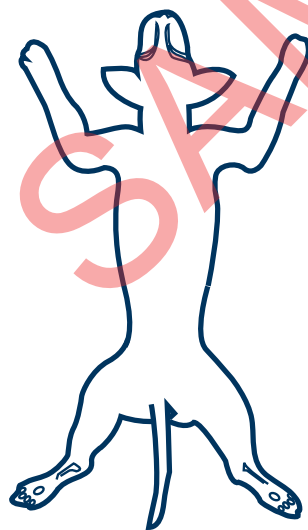
神経・筋骨格系

歩様、ふらつき、関節の異常
（疼痛・腫脹）、腫瘍の有無

歩様、ふらつき： あり なし

関節の異常：
（疼痛・腫脹） あり なし

腫瘍の有無： あり なし



泌尿生殖器系

精巣、前立腺、外陰部、
腎臓・膀胱 他

精巣、前立腺： 異常あり 異常なし

外陰部： 異常あり 異常なし

腎臓・膀胱： 異常あり 異常なし

乳腺： 異常あり 異常なし

腹部

膨満・緊張、消化管内（便、ガス）、
腫瘍の有無

膨満・緊張： あり なし

消化管内（便、ガス）の異常： あり なし

触診でわかる腫瘍の有無： あり なし

ペットのお名前：

受診日：

年

月

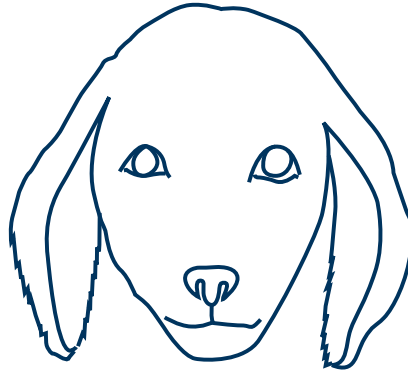
日

眼

濁り、大きさ、分泌物、
眼瞼の異常 他

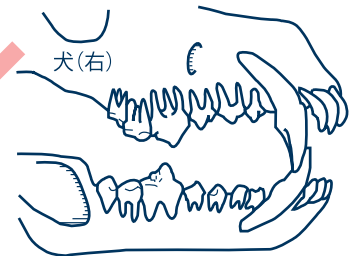
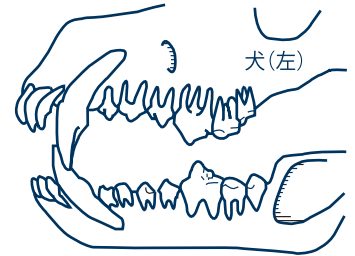
右眼： 異常あり 異常なし

左眼： 異常あり 異常なし



歯

歯列異常、歯肉炎の有無、
歯石の有無、腫瘍の有無 他



歯肉炎： 軽度 中度 重度

歯石： 軽度 中度 重度

耳

右耳： 異常あり 異常なし

左耳： 異常あり 異常なし



聴診

心臓 (心拍数、心雑音、不整脈)、呼吸器 (呼吸数、呼吸状態、換気音)、
腹部 (消化管)

心拍数： 回 呼吸数： 回

心音： 異常あり 異常なし 呼吸状態： 異常あり 異常なし

心雑音： あり なし 換気音： 異常あり 異常なし

不整脈： あり なし

腹部消化管： 異常あり 異常なし

鼻腔・咽頭・頸部

鼻腔： 異常あり 異常なし

咽頭： 異常あり 異常なし

頸部： 異常あり 異常なし

ペットのお名前：

受診日：

年

月

日

便検査

性状

硬さ：

色：

出血の有無：

あり

なし

特記事項

粘液の有無：

あり

なし

特記事項

直接塗抹：

浮遊法：

塗抹染色標本：

尿検査

理学的性状

化学的性状

尿沈渣

色：

pH：

円柱：

清濁：

タンパク：

結晶：

臭気：

グルコース：

赤血球：

尿比重：

ケトン：

白血球：

潜血：

上皮：

ビリルビン：

細菌：

精子：

レントゲン

胸部レントゲン

- 肺： 正常 血管パターン 気管支パターン 肺泡パターン 間質パターン
- 心臓： VHS（今回： 前回： ）
CTR（今回： 前回： ）
形状（正常： 異常： ）
- 縦隔： 変位（あり なし） 縦隔気腫（あり なし）
- 気管： 変位（あり なし） 気管虚脱（あり なし）
- その他： 異常あり 異常なし

レントゲンコメント

腹部レントゲン

- 肝臓 正常 抽出不可 異常： 変位 サイズ 形状 不透過性
- 脾臓 正常 抽出不可 異常： 変位 サイズ 形状 不透過性
- 膀胱 正常 抽出不可 異常： 変位 サイズ 形状 不透過性
- 消化管 正常 抽出不可 異常： 変位 サイズ 形状 不透過性
- 前立腺・精巣 正常 抽出不可 異常： 変位 サイズ 形状 不透過性
- 子宮・卵巣 正常 抽出不可 異常： 変位 サイズ 形状 不透過性
- その他： 異常あり 異常なし

レントゲンコメント

ペットのお名前：

受診日：

年

月

日

Large empty rectangular box for notes or details.

ペットのお名前：

受診日：

年

月

日

Large empty rectangular box for notes or details.

各検査項目に関連する代表的な疾患を記載しています。

※今回の検査結果がこの参考基準値から外れても必ずしも異常を示すものではありません。

詳しい結果の解釈につきましては、獣医師の先生の説明をお聞きください。

各検査項目ごとの参考基準値を示しています。

検査項目	検査結果	単位	判定	参考基準値(犬)
グルコース(Glu)	140	mg/dL	高	60~123
アミラーゼ(Amy)	570	U/L		401~1395
尿素窒素(BUN)	7	mg/dL	低	9~30

参考基準値を外れている場合でも必ず異常とは限りませんので先生の説明を良くお聞きください。 検査結果が「高」は参考基準値より高値であったこと、「低」は低値であったことを示します。

血液化学検査

血液化学検査は、異常な器官系の検出を目的として行われ、各項目を組み合わせて総合的に判断します。

総蛋白(TP)	血液中の蛋白質の総量を示し、栄養状態、肝・腎機能や免疫機能の指標となります。Alb、Globの数値と併せて評価します。
アルブミン(Alb)	血液中に多く含まれる蛋白質です。上昇は脱水、低下は肝臓、腎臓、腸などの疾患や出血などが疑われます。
グロブリン(Glob)	血液中に多く含まれる蛋白質です。上昇は脱水、慢性炎症、腫瘍、減少は免疫異常などが疑われます。
アルブミン/グロブリン比	アルブミンとグロブリンの比を算出したものです。慢性炎症、腫瘍、慢性肝障害、腎からの喪失などで低下します。
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ(AST)	肝臓、骨格筋、心筋に多く含まれている酵素です。主に肝機能の指標として用います。
アラニンアミノトランスフェラーゼ(ALT)	肝臓に多く含まれている酵素です。肝細胞の障害を評価します。
アルカリフォスファターゼ(ALP)	主に胆道系疾患(胆汁鬱滞、胆管肝炎など)で上昇する肝酵素です。骨の成長期、ステロイド、腫瘍などの影響により上昇する場合があります。
ガンマグルタミルトランスペプチダーゼ(GGT)	主に胆道系疾患(胆汁鬱滞、胆管肝炎など)で上昇する肝酵素です。
総コレステロール(TCho)	生体の主要脂質成分であるコレステロールの血液中の総量を示します。肝臓や胆道、腎臓の疾患や、糖尿病などの内分泌疾患などで上昇します。肝不全、小腸疾患、甲状腺機能亢進症などで低下します。
トリグリセリド(TG)	高脂血症の指標として用います。甲状腺機能低下症、糖尿病、副腎皮質機能亢進症、肝不全等で上昇することがあります。
総ビリルビン(TBil)	ビリルビンは赤血球中のヘモグロビンの代謝産物です。溶血、肝障害、排泄経路の閉塞などで上昇し、黄疸の原因となります。
グルコース(Glu)	血糖値を示し、糖尿病や低血糖の診断に用います。食事の影響を受けるため、食後に上昇します。また興奮などのストレスやステロイドの影響により上昇する場合があります。
アミラーゼ(Amy)	主に膵臓から分泌される消化酵素です。主に膵炎の指標として用いられます。
リパーゼ(Lip)	主に膵臓から分泌される消化酵素です。主に膵炎の指標として用いられます。
尿素窒素(BUN)	腎臓から排泄される代謝産物で、腎機能の低下や消化管内出血などで上昇します。また、肝機能の低下により減少することもあります。
クレアチニン(Cre)	腎臓から排泄される代謝産物で、腎機能が低下すると上昇します。低下の原因としては、著しい筋肉の減少などがあります。
BUN/クレアチニン比	BUNとクレアチニンの比を算出したものです。腎疾患、脱水などで上昇し、肝不全などで低下します。
カルシウム(Ca)	骨代謝や筋肉の収縮、血液凝固などに関与します。主に腎臓や上皮小体の疾患などで変動します。また、腫瘍で上昇する場合があります。
リン(P)	主に骨代謝に関与します。腎不全、甲状腺、上皮小体の疾患などで変動します。

電解質

ナトリウム(Na)/カリウム(K)/
クロール(Cl)

Na、K、Clは電解質と呼ばれ、細胞の浸透圧調節や体内の酸-塩基平衡(pH)調節、神経伝達など重要な機能を担っています。腎疾患、内分泌異常、脱水、嘔吐、下痢等様々な病態で変動します。

内分泌

血清総サイロキシン(T₄)
遊離サイロキシン(FT4)

甲状腺疾患(犬では甲状腺機能低下症、猫では甲状腺機能亢進症)が疑われる場合に検査します。

血球計算

血球計算では血液中の細胞数をカウントすることで、貧血や炎症、感染などの有無を調べることが出来ます。

赤血球数(RBC)	貧血、赤血球増加症などを示す指標	高値: 脱水、心(肺)疾患、赤血球増加症 低値: 様々な原因による貧血	
ヘモグロビン濃度(Hgb)			
ヘマトクリット(HCT)			
平均赤血球容積(MCV)			
平均赤血球ヘモグロビン量(MCH)			
平均赤血球ヘモグロビン濃度(MCHC)			
網状赤血球数(RET)			※網状赤血球数: 未成熟な赤血球で、貧血の原因解明に重要な指標となります。正確にカウントすることで骨髓での造血能力を知ることができます。
総白血球数(WBC)	炎症性疾患などを示す指標	※総白血球数(WBC)とともに以下5種類の血球を分類することが体の中で何が起きているか知る上で重要です。(白血球5分類)	
白血球5分類		好中球数(Neu)	高値: 運動、ストレス、慢性炎症、グルココルチコイドの投与など 低値: ウイルス感染、激しい細菌感染、飢餓など
		リンパ球数(Lym)	高値: 慢性炎症、白血病など 低値: ストレスなど
		単球数(Mon)	高値: 壊死、慢性炎症など
		好酸球数(Eos)	高値: アレルギー疾患、寄生虫、腫瘍など 低値: ストレスなど
		好塩基球数(Bas)	高値: 慢性炎症、内分泌疾患など
血小板概数(Plat)	出血性疾患などを示す指標	高値: 急性出血、血小板再生反応など 低値: 慢性出血、免疫介在性血小板減少症など	

オプション検査

犬特異的リパーゼ(Spec cPL™)
猫特異的リパーゼ(Spec fPL™)

嘔吐、食欲不振、下痢等の症状がみられるなど、膵炎を疑う場合に検査します。Spec cPL/fPLは世界中で使用されている犬猫の膵炎診断のゴールドスタンダード検査となっています。

Cardiopet® proBNP
(NT-proBNP)

犬猫の循環血中のNT-proBNP濃度の数値による測定結果は、聴診や画像診断等の情報と合わせることでより正確な心疾患や心不全の診断が可能となります。特に猫では初期段階における肥大型心筋症の指標としても有用です。



これからも気になる変化などがありましたら、
すぐに動物病院へご相談ください。
私たち **Team HOPE** と一緒に、定期的に
大切なペットの健康を見守っていきましょう！



ペットは1歳を過ぎると、1年で約4歳の歳を重ねると
言われています。
人が40歳を越えると毎年健康診断を受診するように、
ペットも動物病院で定期的な健康チェックを行うことで、
病気の早期発見・早期治療につながります。
Team HOPE では、日頃の健康管理のための
「Team HOPE ウェルネスチェック」と、
半年に1度の「Team HOPE 健康診断」を推奨しています。

犬・猫の年齢	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳
人 に 換 算 す る と (歳)	18	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64	68	72	76	80	84	88	92	96
小型犬	18	24	28	32	36	40	44	48	52	56	60	64	68	72	76	80	84	88	92	96
中型犬	18	24	29	34	38	43	48	53	59	64	69	75	80	85	91	96	101	107	112	117
大型犬	17	24	32	40	48	53	59	64	69	75	80	85	91	96	101	107	112	117	123	128
猫	20	24	29	34	38	43	48	51	54	57	61	64	67	70	73	77	80	83	86	89

※年齢はあくまで目安です



Team HOPE
Healthcare Organization for Pets

Team HOPE 検索

ペットとの大切な時間をいつまでも www.teamhope-f.jp

全国の動物病院で組織された私たち Team HOPE は、ペットの限られた一生の中での「健康な時間」を少しでも延ばせるよう、ペットの健康管理と予防医療を通じて、ペットにやさしい社会づくりに貢献していきます。